

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

③論文作成支援の充実

《人社系》

●広島大学総合科学研究科総合科学専攻

「文理融合型リサーチマネージャー養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

「21世紀科学プロジェクト群」主催の研究会を活発に行い、学生に研究成果を発表させた。また、「学生独自プロジェクト」の公募研究を行い、様々の専門分野の教員による助言・評価を通じて、学生の研究内容を向上させた。その結果、プロジェクト活動の成果を生かした優れた博士論文を完成させた学生も出てきた。しかし、グループ研究・プロジェクト活動の成果を専門領域での修士論文・博士論文に効果的に応用できる学生の人数はまだ少なく、これについて、体系的に指導することは今後の課題として残った。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

文理を問わず、異分野の領域の融合それ自体が大きな課題であり、リスク、情報、環境、文明、平和などに関連する課題を掲げてプロジェクトを果敢に推進した学生グループもあったが、学生の修士論文、博士論文に結びつきにくいという問題があった。そのため、プロジェクト活動と論文作成という2つの作業を別個に行わねばならない学生も中にはいた。また、そもそも学際的なプロジェクト研究の広がり停滞する時期もあった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

学生独自プロジェクトのヒアリング過程で、適宜助言を与え、研究分野のマッチングを促した。また、融合に幅をもたせ、学生個々人の論文テーマに近いプロジェクト研究課題で良いように柔軟性をもたせることで、プロジェクト活動と博士論文執筆の両立ができるようにした。